東京電力ホールディングス（株） 福島第二原子力発電所

2026年度 パフォーマンス向上会議不適合報告情報（2026年11月18日（水）分）

◆ 不適合とは、法律等で報告が義務づけられているトラブルや、設備の点検で見つかる機器の故障など、発電所の設備や業務の安全性及び信頼性の確保に必要な要求事項を満たしていない状態をいいます。

2026年11月18日にパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

区分 Ⅰ: 該当なし

区分 Ⅱ: 該当なし

区分 Ⅲ: 該当なし

その他: 8 件

NO.	号機等	不適合内容	CAQ影響度	発見日
1	1号機	「格納容器HCWサンプ放射能高」警報が複数回発生したことを確認した。原因は湿度の影響による検出器の誤動作と考えられるため、当該検出器へ湿気防止剤の封入を実施した。 なお、現時点で警報はクリアしており、監視機能に異常はない。	Non-CAQ	11月14日
2	3号機	視察対応を行っていた当社社員が入退域管理装置で処理を行わず放射線管理区域から退域したことを確認したため、原因調査・対策検討。 なお、本事案確認後速やかに当該社員の線量修正を実施しており、放射線管理上の影響はない。	Non-CAQ	11月17日
3	4号機	エリア放射線モニタ盤において「盤内異常」警報が発生した。保護リレーの不具合または警報回路の異常が考えられるため、当該機器を点検・修理する。 なお、当該警報はクリアしており、中央操作室の巡視にて当該盤内の状態を確認できているため、管理上の影響はない。	Non-CAQ	11月17日
4	3・4号廃棄物処理設備	使用済樹脂系使用済樹脂槽A液位発信器点検時、指示値の計器精度外れを確認したため、当該計器を調整し精度内であることを確認した。	Non-CAQ	11月13日
5	3・4号廃棄物処理設備	使用済樹脂系原子炉冷却材浄化系沈降分離槽A液位発信器点検時、指示値の計器精度外れを確認したため、当該計器を調整し精度内であることを確認した。	Non-CAQ	11月13日
6	3・4号廃棄物処理設備	低電導度廃液系脱塩装置A入口圧力発信器点検時、指示値の計器精度外れを確認したため、当該計器を調整し精度内であることを確認した。	Non-CAQ	11月13日
7	3・4号廃棄物処理設備	高電導度廃液系サンプCポンプF起動時、ポンプの出口逆止弁の開固着を確認したため、当該弁を点検・修理する。 なお、当該サンプCの排水機能に影響はない。	Non-CAQ	11月16日
8	3・4号廃棄物処理設備	高電導度廃液系濃縮器C余熱運転中、加熱器C蒸気ドレンレシーバータンク移送弁の動作不良（開動作しない）を確認したため、当該弁を点検・修理する。 なお、高電導度廃液系濃縮器AとBが使用可能なため、管理上の影響はない。	Non-CAQ	11月16日